

歳

時

記



クチナシ（梔子）

梅雨どきの夕、庭に立つとクチナシの花がしっとりと白く浮かびあがり、甘い芳香が辺りに漂います。

秋には、実が熟し黄赤色となります、裂開しないことから「口無し」というのが一般的に語源とされています。その他、「黄為」の意味という説、「口苦し」から転じたものなどの説もあります。

古来よりクチナシの実は、鎮静、止血などの漢方薬に使われている他、黄色の染料や食品の着色料にも利用されており、特に正月のきんとん作りには欠かせないものとなっています。

実のなる一重咲きや、実のならない大輪の八重咲きのものなどがありますが、早春のジンチョウゲ、初秋のキンモクセイと並んで香りのよい庭木として親しまれています。

「くちなしの色に咲なる花ゆへに
いてや昔のこともとはれす」

平 重 方

さ

い

じ

き

茨城県
行政資料